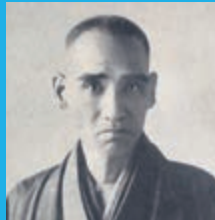


立派な小説を書きたい 三島 霜川

1876 (明治9) 年7月30日—1934 (昭和9) 年3月7日



強い意志をもち小説家に

尾崎紅葉に小説を学ぶ

子ども向け歴史物語も執筆

小説家を夢見る少年

砺波郡下麻生村 (現高岡市) で医者の長男に生まれました。本名を才二といい、幼いころから本を読むの

が好きで、家の土蔵に入って本を読んだり、物思いにふけったりしていました。父親は家業の医者を受け継ぎたいと考えていましたが、才二は小説家になるという夢を持っていました。

多くの分野で執筆活動

才二は父の反対を押し切って18歳のときに上京し、貧しい生活をしながら小説を書き始めました。あこがれていた尾崎紅葉の弟子になることができ、「三島霜川」のペンネームで書いた『埋れ井戸』が文芸雑誌「新小説」に掲載され、作家としてデビューしたのは1898 (明治31) 年、22歳のときのことでした。

さらに、1907 (明治40) 年には霜川の代表作となる『解剖室』を「中央公論」に発表し、作家としての評価が一段と高まりました。

その後、霜川は演劇を評論する仕事に力を入れるようになりました。特に歌舞伎に対する知識と鑑賞する力は人一倍優れたものがあり、『役者芸風記』などは名著として現在でも読まれています。また、子ども向けの歴史物語にも情熱を注ぎました。

夢や志をかなえたポイント

- 子どものときに夢見た職業を目指す
- あこがれの先生に学ぶ
- 多くの分野に興味をもつ



霜川の歴史小説は、子どもたちに大人気でした。(徳田秋聲記念館提供)

豆知識 霜川は俳句にも本格的に取り組みました。故郷をしのいで作ったとみられる作品が多くあります。